

## フィールドワーク:日本特殊陶業株式会社

---

2016.05.30 Monday10:49

5月27日（金）、国際クラス3年生1名が課題研究のフィールドワークを実施しました。女性の活躍推進について研究を進めており、日本特殊陶業株式会社本社（名古屋市）にて、プロジェクトリーダーを務めている大塚悦子様日本特殊陶業株式会社が女性の活躍推進のために取り組んでいるDIAMONDプロジェクトについてお伺いしました。

### ——女性雇用の現状について学ぶ

日本の経済社会が変化する中で、企業は女性の労働力を積極的に活用していく方向にあり、優秀で勤務意欲の高い女性を雇用・育成していくことは、これからの日本経済で大変重要なことだとわかりました。しかし現状として、女性が一生に一度は経験するであろう出産・育児などのライフイベントを機に離職を余儀なくされている例は多く、以前M字型の雇用状況は続いていることが課題であると感じました。

#### DIAMOND プロジェクト

社長自らが、女性活躍推進を経営戦略として捉え、2013年に「DIAMONDプロジェクト」を発足させ、副社長をプロジェクトオーナーに女性の活躍推進に向けた取り組みを進めているそうです。風土を変える・意識を変える・環境を変えるを指針として、トップダウンで活動を行い、女性の職域拡大のための人事制度拡大や全基幹職への研修、国内関係会社を含めた全部門においてアクションプラン策定・実施等しているとのことでした。

（国際クラス3年生 S）

## フィールドワーク:愛知県多文化共生推進室

---

2016.05.27 Friday19:55

課題研究のフィールドワークとして5月26日（木）16:20から国際クラス3年生7名が愛知県庁県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室に訪問させていただきました。生徒たちはそれぞれの研究テーマに沿って、「外国人住民の医療問題」など外国人との共生・協働について、大橋充人様よりお話を聞かせていただきました。

### ——外国人患者への医療支援を知る



愛知県では、医療現場における外国人患者の対応として、あいち医療通訳システムを運営していますが、平成 23 年から始まるこの制度は行政が主導で実施されており、このような制度を行政が行うのは全国で初めてだったそうです。

この制度が始まったきっかけを伺ったところ、愛知県の外国人への意識調査(2009 年)において、医療現場で言葉が通じないことが困りごとの第

一位であったという結果があったためだそうです。そのシステムの運営をした当初から現在の状況、課題、これからの展開などのお話を伺うことができました。(国際クラス 3 年 M)

### ——外国人市民の現状と愛知県が行っている施策について学ぶ



大橋様から、愛知県が制定している「あいち多文化共生推進プラン」についてのお話を伺い、外国人市民が日本に住むにあたってどのような問題点があるのかや、外国人市民が暮らしやすい環境を作るために愛知県が行っていることなどを学ぶことができました。また、外国人市民に向けた広報活動では様々な課題があるという現状を知り、課題解決に向けてさらに深く調査していかなければいけないと思いました。(国際クラス 3 年 M)

## 台湾臺北市立中崙高級中學 来校

2016. 05. 27 Friday 13:15

5月23日（月）、昨年度に続き、台湾の臺北市立中崙高級中學から生徒26名、先生お2人が本校に訪問され、校内見学の後、国際クラス2年生の「国際教養」の授業を合同で実施しました。



授業では、台湾人生徒2名と本校生徒3名でグループを作り、一人一人が今後のライフプランの年表を作成し、比較・討議を行いました。両国の女性の年齢別就労に関するグラフや雇用状況、家族構成、社会制度等に及ぶ様々な社会背景の違いを踏まえて、お互いのライフプランについて話し合うことは、生徒たちの相互理解に役に立ったようでした。



授業後、台湾の生徒のコメントシートからは、

”I think the activity is meaningful. It makes both of us know the situation which is different from Japan and Taiwan.

I'm glad to take part in the special discussion with Japanese students.(原文ママ)”

といった、「互いの状況の違いを学べ

て良かった」という感想や、

”I have a great time at Meiji high school today.

I met precious friends, kind students and teachers.

It's making me sad to say goodbye to them. I'll cherish this moment

and save the memory. And I wish we can meet each other again in the future.”(原文ママ)

といった、「とても良い交流が出来、また日本に来たい」という感想が伺えました。

本校の生徒にとっても、同世代の台湾人生徒が将来に対してどう考えているかを聞き、自らのキャリア設計を振り返る有意義な機会となりました。

本校では、12月に台湾研修を行う予定です。

## **第1回Gサロン 4/23**

---

2016.05.25 Wednesday 12:45

☆やりたいことをやる

講師：株式会社 BLI-PRO（ブリ・プロ） 大内ひろのしん氏

---



テレビやラジオへの出演、お祭りイベントのプロデュースなど、幅広く活躍されている大内ひろのしん氏に、「やりたいことをやる」楽しさ、実際に「やりたいことをやる」ために必要なことは何かということ、約130名の生徒を前に、「熱く語っていただきました。

### —楽しかった高校時代

ひろのしん氏は、高校時代、皆で一丸となって楽しんでいたそうです。「悩みなんて何もない、もっと面白いことを考えていくことで悩もうよ」ということで、皆が1つになって、伸び伸びとした高校生活を過ごしてきたそうです。そのときは気付かなかったけれど、それが今の自分の宝物になっているそうです。

---

## —やりたいことを形にするには？



生徒たちも、自分自身を振り返ってみました。紙を4つに折って、まず最初に「自分のやりたいこと」を思いつくまま書いてみました。そのあとに、「やりたいことをやるには何が必要？」という問いかけがありました。先ほど書いた「やりたいこと」を実現するには何が必要なのか、と少し現実的に考えてみました。大切なことは、1いつ、2どこで、3誰が、4誰に、5何を、6どのように、7どうなってい

く、8いくら…というポイントがあるということです。その中でも7が一番大事だとおっしゃいました。なぜならビジョンは物事の基本だから、と。

## 人生はプレゼンテーション

そして様々な体験を語ってくださいました。喫茶店を立ち上げ、たたんだ24歳。諦めきれずに理想の喫茶店のイメージをスケッチしながら、友人と新しいお店を作りあげていった経験、多くの芸能活動、イベントの企画、近いうちに開催される手羽先サミット、。『いろいろな経験をすると色々なビジョンがみえてくる』とおっしゃるように、ただじっと机の前で考えているのではなく、身体と頭を動かし、人を巻き込んで大きな流れを作っていく、まさに「プレゼンテーション」といえるでしょう。

## —誰かのために汗をかき動くと何かが見えてくる



現在までの活動を振り返り、大内氏は「この世の中は自分ひとりではないし、物事の見方は一つではない。」という考えに行き着いた、とおっしゃいました。私たちもやりたいと思ったことをなんとなくで終わらせるのではなく、ビジョンを持って、人との関わりを大切にしながら物事を追求していきたいですね。

## フィールドワーク: Man to Man 株式会社

2016. 05. 23 Monday 10:46



5月20日（金）課題研究のフィールドワークとして、国際クラス3年生7名が Man to Man 株式会社のオフィスに訪問させていただきました。該当の生徒たちはそれぞれ「外国人労働者」や「外国人の就労支援」、「障害者雇用」に関わる諸問題をテーマに研究を進めており、当日は取締役部長の澤様、グローバルマーケット開発部課長の布垣様、グローバル開発部部員でキルギス出身のブタバエフ様にお話いただきました。

同社は、アウトプレースメント（再就職支援）を含めた人材紹介サービスや人材派遣サービス等、「ヒト」に関わるサービスとアウトソーシング（業務請負）を、愛知県を中心に広く展開しておられます。生徒たちは「Link Asia」というサイトにおいて同社の事業内容の一端を知り、お話をお伺いしたいと熱望していた結果、今回の機会をいただくことができました。

### ——— 愛知の「グローバル人材」の雇用を支える



当日はご用意いただいた資料をもとに主に会社概要と外国人雇用や障害者雇用についてお話を伺い、私達からの様々な質問にも丁寧にご回答いただきました。

特に、どのように外国人雇用のサポートをおこなっているかについて教え

ていただいた際には、これまで特に意識していなかった「就職活動」自体にも、日本独特の時期や慣習があることに気づきました。また、様々な機関が外国人雇用や障害者雇用に関して機能していることについても、多面的かつ具体的に教えていただきました。



このフィールドワークを通して、企業が行う様々な事業や活動の元にある「思い」や「理念」についても実感を持ってどのような思いを持ち愛知県にいる外国人をサポートしているのかをこのフィールドワークで深く理解することができました。(国際クラス3年 K)

## グローバル概論: 若者世代が創る持続可能な未来

2016. 05. 12 Thursday13:03

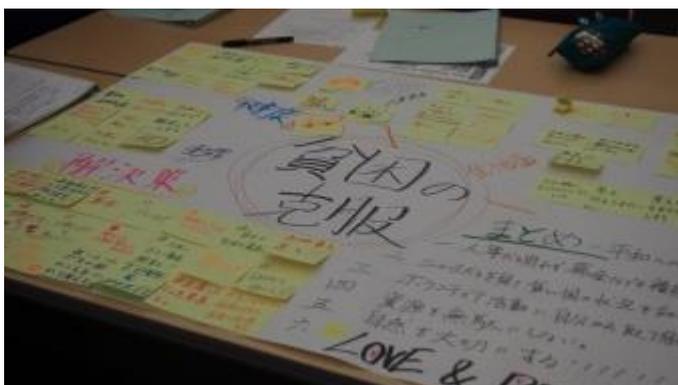


5月11日(水)、普通科文系コース2年生113名がグローバル概論(総合的な学習の時間)で大阪府立大学大学院人間社会学研究科准教授の伊井直比呂先生に「若者世代が創る持続可能な未来 “UNESCO”のグローバル市民」と題する授業をしていただきました。

普通科文系コースの2年生は、今年度からSGHの対象となった生徒たちで、現在グループで取り組む探究課題についての検討をしております。授業後に生徒から提出された振り返りシートによりますと、これまでは世界に目を向けることはまれであったが、

地球には日本のように安心して将来を語れない中高生がいることを知り、もっと世界のことを知ろうと考えるようになったというような意見が多数ありました。

———持続する社会はあたりまえ？———



日本の高校生は、明日は当たり前のようにやってくると考え、将来の夢を語ったりするが、世界には明日の「生」を期待できない、将来のことを考えることができない同世代の人々がたくさんいる。そして、将来のことを考えることができるか否かは、教育を

受ける機会の有無に左右されている。

また、今我々が生きていられるのは過去の人々が社会を持続させてくれたおかげであり、我々は社会を次世代に持続させるために何らかの行動をしなければならない。なぜなら、我々以外に今行動できる人間はいないからだ。

伊井先生の授業をもとにして、5月25日(水)にグループごとに持続可能な社会のための課題についてディスカッションを行いポスターにまとめた。そして、6月1日(水)にポスターを用いてプレゼンテーションを行い、課題とその解決法についての共有を行った。同じテーマについてディスカッションをしてもグループによって解決法が異なるなど、考え方は一つではないことを理解できたことも収穫であった。